

情勢報告

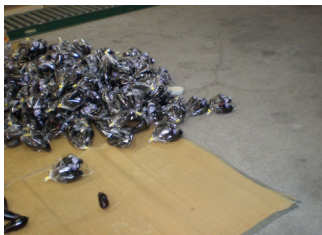
現地検討会で技術研鑽



現地圃場では具体的な意見交換がなされた。

平成22年4月15日、JA土佐あき園芸研究会アスパラガス部会(目慣らし、年間事業の計画、現地研修)にJA営農指導員を含め14名の出席があった。主作型である半促成長期どり栽培の経験が浅い農家が多く、不安を抱えながら取り組んでいる。そこで、お互いの技術研鑽と産地にあった栽培技術を確立するため、振興センターの呼びかけで開催された。現地検討会では栽培技術について多くの質問が出て、活発な意見交換がなされ、振興センターはこれらの質問に対して丁寧に答えた。今後も部会、JA、振興センターで定期的に現地検討会や目慣らし会を開催してともに部会員の栽培技術向上をめざす。

出荷増量期に向け集出荷場の衛生チェック（GAPの取り組み）



【要注意】

作業に熱中し気が付けば、ナス袋がゴザからはみ出している

出荷増量及び高温期に向け少しでも事故のリスクを軽減するため、4月1日に農産物の腐敗果や異物混入事故などの防止に向け、管内10箇所の集出荷場について衛生チェックを園芸連、農協とともに実施した。

取組も4年目となり、作業員の服装や場内の整理整頓なども良くなっているが、休憩後の着帽忘れや集出荷場外周の整理整頓がもう少し必要な箇所などもあり、注意を喚起して回った。

今後とも農産物の安全安心が保たれるよう、関係機関と巡回方法等を協議しながら、より信頼される産地を目指して取り組んでいく。

北川村、「ユズ銀行」職員への技術指導



図に描いてのユズ苗木の仕立ての勉強

JA土佐あき柚子部北川支部では、高齢農家の園地作業の労働力補完のために二人の職員を雇用し、農家の希望により防除などの農作業を受けている。しかし、ユズ栽培管理を本格的に行うのは初めてであり、基本技術の習得が課題であった。そこで振興センターでは、2月から月2、3回実技、勉強会を行ってきた。4月は、受託園地の剪定の実習（13日）と苗木の仕立て、防除方法の勉強会（22日）を行った。座学と実技ではなかなかかみ合わないところがあったが、質疑応答の中から理解を深めた。これからも、実技、座学、他産地の視察を行い、技術習得に向けて協力していく。

ブルースター疫病対策会議



現地検討会の様子

振興センターは4月22日にJA土佐あき花き部芸西支部ブルースター部会、JA土佐あき芸西支所、花き専技および農業技術センター研究員に招集をかけ、疫病対策協議会を開催した。近年悩まされている疫病について、21年度の対策試験の結果やこれからの対策方法を皆で協議した。

農業技術センターから疫病に効果のある薬剤が明らかにされ、また新しい土壌消毒法も紹介された。部会員は強い興味を示し、次回作に取り入れる模様。

今後、振興センターは、現地検討会等を通じて、技術的な対策方法を部会員に周知徹底していく。